

II 教学入門

一 教学入門(1) 日蓮大聖人の御生涯一

年		月日		出来事		説明	
貞応元年 1222年	2月16日	御生涯		千葉景信(安房国)			
建長5年 1258年	4月28日	立宗宣言		清澄寺にて南無妙法蓮華経を唱える。日蓮を名乗る。東条景信らの迫害が始まる。日蓮を名乗る。富木常忍・四条金吾・池上宗仲らが入信。			
文応元年 1260年	7月16日	第1回の国主諫		立正安国論を北条時頼に提出。第1回国主諫(三度の高名) 自界叛逆難・他国侵逼難を警告。			
弘長元年 1261年	8月27日	松葉ヶ谷の法難		鎌倉の草庵が襲撃される			
文永元年 1264年	5月12日	伊豆流罪		赦免後、鎌倉に帰る			
文永5年 1268年	10月11日	小松原の法難		東条景信に襲撃される			
文永8年 1271年	9月12日	竜の口の法難		十一通御書を送る 極楽寺良観が権力と結託			
文永9年 1272年	10月10日	佐渡流罪		平左衛門尉頼に第2回国主諫(三度の高名)。凡夫の身に久遠元初自受用報身如来という本地を顕す ※【発迹顕本】			
文永10年 1273年	1月16日	塚原問答		数百人の諸宗の僧らを論破。 阿仏房・千日尼夫妻をはじめ大聖人に帰依する。			
文永11年 1274年	2月	二月騒動		自界叛逆の難が現実			
文永13年 1276年	2月	『開目抄』ゴ執筆		人本尊開頭の書			
文永14年 1277年	4月	『観心本尊抄』ゴ執筆		法本尊開頭の書			
文永17年 1279年	2月	大聖人赦免		2月に赦免、3月に鎌倉に帰る			
弘安2年 1279年	4月	第3回の国主諫		平左衛門尉頼に年内の蒙古襲来を予言 ↓三度の高名(第3回目)			
弘安2年 1279年	5月	身延入山		三大秘法(本門の本尊・本門の戒壇・本門の題目)を明かされる。広布を担う後継の人材育成に全力を注ぐ。			
弘安2年 1279年	10月	文永の役(蒙古襲来)		他国侵逼の難が現実			
弘安2年 1279年	9月21日	熱原の法難		農民信徒20人が捕えられるが全員が信心を貫き通す。↓大聖人は出世の本懐を遂げたと宣言。 青年門下の南条時光らが異体同心で戦う。			
弘安5年 1282年	10月12日	一閻浮提総与の大御本尊を建立					
弘安5年 1282年	9月	身延相承		大聖人御一代の法門を日興上人に付嘱			
弘安5年 1282年	10月13日	池上相承		大聖人御一代の法門を日興上人に付嘱 61歳で御入滅			

■ 四度の 大難

第四	第三	第二	第一	
9月12日 文永8年	1月1日 文永元年	5月 弘長元年	8月 文応元年	年月日
竜の口の法難 佐渡流罪	小松原の法難	伊豆流罪	松葉ヶ谷の法難	法難名
武装した平左衛門尉頼綱らに捕えられ斬首させられそうになるが、空に光りものが走り兵士が恐怖して刑は執行されなかつた。大聖人は発迹頭本された。	東条景信に襲撃されて門下が死亡、大聖人は額に傷を負い左手を切られた。	幕府が大聖人を捕えて流罪した。	立正安国論提出から間もない時期に念仏者たちが大聖人を殺害しようと襲った。	出来事

■ 三度の 高名

第三回 主 諫 暁	第二回 主 諫 暁	第一回 主 諫 暁	
4月11日 文永11年	9月12日 文永8年	7月16日 文応元年	諫暁の日
邪法によって蒙古調伏を行なっている誤りを諫め、蒙古襲来は必ず年内に起こると予言した。	仏法の法理のうえから一国の指導者の有るべき姿を説き、自界叛逆難、他国侵逼難が起こると説いた。	立正安国論を提出	具体的な諫暁行動
平左衛門尉頼綱	平左衛門尉頼綱	北条時頼	諫暁の相手

■事績で見る「日蓮大聖人の御生涯」

※ 妙法弘通と大難（迫害）の人生

